

丹波黒枝豆
1束
900円

市名を「丹波篠山市」に! 要望が相次ぎ、議論をはじめています。

私たち篠山市の先人は、昔から、伝統・文化が暮らしの中に息づく日本の原風景、小京都として、デカンショ節の一節にも唄われる「丹波篠山」という呼称を、誇りをもって使われてきました。また、丹波黒大豆、丹波山の芋をはじめ、「丹波」の名がつく産品を、誇りをもって生産され、ブランドとして内外に広く認められるまでになりました。しかし丹波市発足以来、「丹波」は丹波市を指すという認識が強まり、「丹波篠山」ですら、どこを指すのか曖昧になっている状況が生じています。

問い合わせ 創造都市課 ☎ 552-5106



混乱に強い危機感

平成16年10月、氷上郡6町の合併により「丹波市」が誕生しました。以来、「丹波」という呼称が由来からの「丹波地域」を指すのか、「丹波市」を指すのか、区別がつきにくく、曖昧な使い方がされてきました。

このような状況から、篠山市では市名の変更について検討を開始。平成23年には市民意見を公募しましたが、市民会や市民の間でも賛否が分かれました。そして、平成24年には市民を中心とした検討委員会が発足。議論が重ねられ、「市の最優先課題である財政再建の見通しが立ってから適切な時期に検討を行うことが望ましい」とする報告を受け、「丹波篠山と篠山市」の知名度の向上を目指してきました。

しかし、市名をめぐる混乱はますます激しくなり、「丹波」は丹波市を、「丹波篠山」は丹波市と篠山市を指すなどという認識が広がっています。

市の名称変更の検討を求める要望書が提出されました。要望を受け、市では混乱事例の調査、とりまとめを行い、市名変更の検討をはじめました。また市議会へも同様の要望書が提出され、政策討論会などで議論が深められています。

市制20年を機に、市民一人一人が未来のまちを託す市名についてとりまとめたいと思います。

市名の検討に関する経緯

平成20年6月	JR篠山口駅・丹南篠山口IC名称の変更要望書 JA、観光協会、商工会、商工会青年部の4団体から、「丹波篠山」への変更を求める署名・要望書が提出される。
平成22年度	職員プロジェクトによる研究 市名を変更した場合に生じるメリット・デメリットの整理、情報収集。
平成23年5～7月	市名検討に関する意見募集 職員プロジェクトの調査報告と市民意見を紹介し、あわせてより多くの市民や団体の意見を募集。(結果、賛成は61%、反対が29%、その他10%)
平成24～25年度	市名を考える検討委員会での議論 市名変更が賛成・反対という議論ではなく、論拠の整理と明確化に努めるため、2年にわたり5回開催。
平成25年11月	「丹波」と「丹波市」との使い分けのお願い 明確な使い分けを求め、丹波市長に対し、篠山市、商工会、JA、観光協会が連名で依頼。これに対する丹波市の対応はなし。
平成26年3月	市名を考える検討委員会からの報告書 「市の最優先課題である財政再建の見通しが立ってから行うべきであり、進捗よく状況を勘案しながら適切な時期に検討を行うことが望ましい」と報告。
平成29年	左ページで紹介する各団体からの要望書

情報化社会で「丹波〇〇が混在」

丹波市が発行する紀行文集や観光ガイドブックなどを見ると、戦略的に「丹波」を前面に押し出し、また丹波栗・丹波黒大豆・丹波大納言小豆を丹波三宝と称するなど、広い丹波地域の観光スポットや特産物が、あたかも丹波市にあるとの印象を受けます。篠山市民が、長年にわたり築き上げてきた丹波篠山ブランドでさえ微妙です。

市名が丹波なので仕方がないことですが、今日のネットやテレビに代表される情報化社会では、丹波に関する情報が混在し、特に県外の生活者に「丹波と言えば、丹波市が本場で丹波市産がホンモノ」とのイメージが浸透し、丹波篠山が見えにくくなっていることが懸念されます。

篠山市の産業・観光振興の面からも、市名についての検討をお願いします。



篠山市商工会会長
丸岡 亮介さん

危惧される「丹波篠山」の名称使用の混乱

篠山市の特産物の高い市場評価には、消費者が「丹波篠山」という地域に価値を見出していることが寄与していると考えています。

ところが、昨年10月に放送された「誇りの逸品ここにあり! 一兵庫・丹波篠山」というテレビ番組でも、篠山市の特産品とともに丹波市の特産品が紹介されたように、「丹波篠山」が丹波市と篠山市を併せた地域を表す名称として使用される例が多くなっており、大変危惧しています。

JAは、今後とも「丹波篠山」が篠山市の地域を指す名称であってほしいと願っており、そのためには市名についても検討をお願いしたいと思っています。



丹波ささやま農業協同組合
代表理事組合長
澤本 辰夫さん

市名を「丹波篠山市」に! 要望された団体の意見を紹介

丹波篠山ブランドを守るために

篠山市は有名や! と思っていませんか? 民間調査会社の調べ(2016年調査)では、全国1,000の市区町村中、篠山市の認知度は602位。丹波市は366位です。観光案内所には毎日のように、丹波市についての電話や窓口への問い合わせがあります。「丹波黒大豆」など丹波を冠する産品などが、丹波市特有のものとして誤認されることも多々あります。

一方「丹波篠山」の認知度は、民間交通社調べで近畿圏以外でも約70%もあります。「篠山市」よりも「丹波篠山」に優位性があることが明らかです。

丹波篠山ブランドを守り、さらにはこの厳しい時代を生き抜いていくために、早急に市名を検討する必要があると考えています。



丹波篠山観光協会会長
西尾 和磨さん

丹波栗と篠山は一体不可分 ～丹波篠山市に!

丹波篠山の栗は、平安時代から朝廷に、江戸時代には将軍家に献上され「大きくておいしい丹波栗」と全国から評されてきました。

当会は創立49周年を迎えますが、篠山出身の荒木 齊 農学博士が丹波栗栽培法の研究成果を兵庫方式として提唱され、当会は創立以来この方式の指導を受け、篠山産丹波栗の量質共に向上させ、ブランド力強化に努めてきました。従って歴史的にも、社会的にも丹波栗と篠山は一体不可分なのです。

ところが丹波市発足以来、篠山市は丹波栗との結び付きが薄れ、例えば栗拾い客や観光客から丹波栗と言えば丹波市と誤解している人が年々増えています。この際、市制20周年を新生「丹波篠山市」として自立した市の成人式を迎え、この名を全国に発信したいものですね。



丹波ささやま栗振興会会長
西垣 秀雄さん

誤解を招いている 混乱や誤解の事例

- 丹波篠山の黒枝豆を買おうとして、誤って丹波市に行ってしまう。
- 丹波篠山観光をしようとして、観光客が誤って丹波市に行ってしまう。
- 「丹波篠山」を特集したテレビの番組で、丹波市内の飲食店を紹介している。
- 雑誌やテレビなどで、篠山市と丹波市の両地域を指す表記が「丹波篠山」となる場合がある。
- インターネットで「丹波」と検索すると「丹波市」が表示され、丹波篠山にヒットしない。
- インターネットで「丹波栗」と検索すると「兵庫県丹波市で生産される山の芋」と紹介されているサイトがある。